

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200057		
法人名	(有)テクノライン		
事業所名	すこやかほ〜む七山 (2ユニット)		
所在地	佐賀県唐津市七山滝川1001		
自己評価作成日	平成22年7月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年8月25日	外部評価確定日	平成22年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>七山の自然を身近に感じ、地域との交流をたくさんもって、明るく生活できるように支援しています。入居者、家族、職員が「共同生活者」として一緒に問題解決に努めます。家族、入居者と相談しながら、細かく入居者の状態を把握し医療との連携に努めています。生活意欲を引き出す為に楽しく運動・レクリエーション・趣味活動・歌・頭の体操・家事等ができるような環境づくりに努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域密着型サービスのあり方について試行錯誤しながらの感はあるが、職員は真摯に取り組み、地域住民との交流を求め、事業所内で食育の講習をするなど活発にアピールしている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者中心の生活援助を基盤にした分かりやすく、覚えやすい理念を掲げ、その理念の下に職員が職務を遂行できている。	同左	開所時に職員全員で意見を出し合い、思いを込めた理念となっている。各ユニットの入口に掲示され、月1回の勉強会では振り返りの基本としている。各項目が長文であるため、毎朝の唱和にも使えるよう端的な文章へと現在、考慮中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加、公民館での交流を通じ、地域の中にとけ込むよう努め、また地域の方の来訪や相談が自由に行える開放的なイメージ作り。	同左	自治会に加入し、地区の行事や空き缶拾いなど清掃活動へも積極的に参加している。広報紙「七山だより」での紹介記事や、食育活動を事業所内で実施したりと交流のきっかけも作っている。近所の立ち寄りも増え、徐々に地域との関わりが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃利用するスーパーや隣近所に対し友好的なイメージを持たれており、自然に援助協力関係が保たれている。	同左		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で上がった意見を反映させる取り組みがある。	同左	2ヶ月に1回の開催とし、事業所からの報告だけでなく、双方向な意見交換の場となっている。駐在所の警察官の出席もあることから、防犯や事故防止のアドバイスを受けたり他の出席者にとっても有意義なものとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	唐津市役所の介護保険関係の担当との連絡や相談を密にして協力関係を築けている。	同左	日頃から担当者には連絡を取るようしており、相談事もしやすい関係となっている。運営推進会議や事業所の行事等への出席もあり、実直に対応してもらえる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて勉強を行い、意識を高めることができています。現在は外玄関の施錠(時間を決めての)について話し合いを重ね、入居者の立場で考えるようにしている。	同左	外部研修に参加したり、月1回の勉強会でも身体拘束をしないケアについて話し合われている。運営推進会議でのアドバイス等から事業所の敷地内へ入る門扉だけは閉じられているが、玄関等の施錠はなく、入居者は外庭への散歩も自由に出ており、職員はそれを見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて援助者の心構えを確認し、虐待が起こらないような環境づくりに努めている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などにおいて、社内研修を通じて取り組んでいる。研修にも派遣し全体で勉強する機会を持っている。成年後見制度利用の実例を通じて勉強し、後見人との連絡を密に取り、入居者を支援できるよう努めている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	補足資料を作成し、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。また、重度化された場合の対応について、入居時からお話していくようにしている。	同左		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をはじめ、行事等で交流する機会を持ち、また日々の面会時にその都度、直接意見交換する事で検討や相談を行い、すぐに問題解決を図れるよう努力している。	同左	家族会があり、年2回の集まりがある。また、事業所の行事や通院介助、必要な物品の補充をお願いした折の面会は、家族からの意見が聞ける絶好の機会と捉え、話しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は速やかに話し合わせ職員全体へ周知される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などで意見交換する機会を設けている。また運営者、管理者、現場の職員全体でホーム運営の向上について取り組んでいる。	同左	月1回の勉強会が職員からの意見を聞く場ともなっている。入居者の状況はもとより、節電やゴミ問題といった事業所内の細かいところまで幅広い意見が出され、日々の作業についても改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加してもらい、会議の際に発表する、など行う。職務をマスターする為のトレーニングについては、ほむ独自の新人教育の取り組みを始めたところである。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度、グループホーム連絡会へ参加し、地域の同業者、医療施設などとのネットワークが広がってきた。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話の受容、表情、動作などの観察を常に行っている。本人が困っていることをいかに少なくしていくか私達のケアである為、入居後年月が経とうとも姿勢は変わらず、職員全員で入居者の安心と信頼関係の確保に努めている。	同左		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より随時、相談を受け、入居後も少しの状態変化でも報告して、本人や家族の困りごとを把握して支援するよう努めている。面会頻度の少ない家族には、なるべく面会に来ていただくようお願いして、実際に話す機会を増やす。	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント結果の把握と情報共有を行い、当施設以外にも他施設や地域包括支援センターなどの紹介資料をお渡しするなど努め、対応ができる。	同左		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共同生活者」として、「入居者本位」のケアを継続して実践するため、定期的に職員間で話し合い、本人の話を傾聴し意見を聞きながら日々入居者が充実感を得るよう援助している。その結果、徐々に信頼関係が築けている。	同左		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設の際、ご家族の労をねぎらい、話を聞くようにしている。家族と共に目標を達成していけるよう努めている。医療も含めてそれぞれが提案をして家族と一緒に解決する姿勢でいる。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との報告、連絡を密にする面会、外出、外食などフリーにできるよう支援している。ご本人に普話を聞かせていただいたり、本、写真を見せていただいたりして、馴染みの人を忘れないようにしている。また、ゆかりの地を訪ねるなど。	同左	入居後もこれまでの生活の延長線上であると考え、家族への電話を代わりにかけたり、初盆参りをサポートしたりと、つながりが継続されるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関わりには積極的に取り組み、人間関係を把握し、良い距離感で職員が間に入ったりしてホーム内の友人関係を大事にさせていただいている。鳴神ユニットと観音ユニットの交流も気分転換となり効果が現れている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的に次の転居先、入院先が決まってからの退居となるが、利用終了後も必要に応じて連絡したり、情報提供及び相談を行う取り組みがある。	同左		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別レク、担当職員の配置にて、月単位での目標を立て評価を行い、その後のケアに反映させている。	同左	日々の関わりの中で入居者の目線に合わせながら声を掛け、その思いを汲み取ろうと努めている。意思疎通が困難な方には家族からも情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の性格や生活歴を大事にして、普段の声かけや対応に配慮している。入居時のアセスメントサマリーを入居後の生活に生かしている。室内の配置や好みものに配慮している。	同左		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員の配置と日頃の観察にて情報の共有に努めている。申し送りノートの活用やスタッフミーティングなど実施している。	同左		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に1回のサービス担当者会議や月1回の全体会議において、また問題が発生した時点で話し合いを行い、適切なプラン実行に努めている。3ヶ月に1度のプラン見直しを行い、本人、家族に相談し介護計画作成する。	同左	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、設定した期間での見直しはもちろんのこと、本人や家族の要望や変化が生じた場合にも臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できている。記録だけでなく特記事項など必ず口頭で伝え、毎朝の申し送り時だけでなく、遅出、夜勤入りの職員が来た時も必ず情報を伝える。毎日、個別ケア及びケアプラン実施の記録をつけている。	同左		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状で、できる事に取り組んでいる。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアが来られたり、食生活改善推進協議会の訪問、地域幼稚園からの訪問を受け、楽しめている。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切にし協力病院との連携を密にして、内科主治医及び必要時には他科の医師より、症状に応じた適切な医療を受けられるように支援している。	同左	事業所の協力医のほか、入居前からのかかりつけ医や希望の病院への受診を支援している。家族の同行が難しい時は通院介助も行っている。その場合、受診結果等は当日中に家族へ連絡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師と相談しながら日常の健康管理の支援をしている。2週間に1回の一斉往診にて、普段と違う様子など何でも相談できる関係づくりができています。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。特に受診、入院歴のある病院や入退所に携わった病院とは連携を深めるよう努めている。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しずつ入居者の重度化がすすみ、本人がより良い生活ができるように対応や今後の方針などを家族と話し合いを重ねる時期にきている。状態の変化に応じて随時関係者と話をしている。	同左	過去に一度、看取りの経験もあり、事業所の対応力の変化も率直に伝え、安心して納得した最期を迎えられるように話し合いは繰り返し行われている。事業所が対応し得るケアについても説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早めの主治医報告を徹底させ、個人の病歴や出やすい症状を頭に入れ対応する。救急搬送先の確認を行い、緊急時対応マニュアルを活用している。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	申し送りや会議の時に、どのように実行するか話し合う。災害時、お互いに地域の人の協力を得られるよう近隣に働きかけを始めたところである。	同左	年2回は入居者と共に避難訓練を行っている。消火器の使い方や避難経路の確認等も行っている。地域の協力の呼びかけについては、現在計画中である。夜間を想定した訓練は行っているが、実際の夜間訓練はない。	非常時には職員だけでの誘導に限界があることを踏まえ、地域住民の協力も得られるよう、更なる取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの再度徹底と周知を図り、日頃の言葉かけや介護について意識を高めるよう努めている。 個人情報の取り扱いやプライバシーの保護について慎重に行っている。	同左	援助が必要な時は本人の気持ちを大切に、さりげない声掛けや誘導に努めている。季節毎に発行されるホーム便りでは個人情報やプライバシーに配慮され、家族の承諾も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立援助を基本に本人が希望される事や出来る事をしてもらうことで達成感を得られることは促す。その際は、納得されてから実施する。	同左		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整える事を前提にゆっくり声かけし、何をしたいか聞き、実行する。意思疎通の難しい方には本人の気持ちを汲み取る姿勢で対応する。	同左		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問ヘアカット利用する。清潔に気を配り、個人のオシャレを尊重している。	同左		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、職員一緒に後片付け、洗い物、トレイ拭き、台拭きなど出来る事を日常的に行っている。	同左	入居者は自分の出来る事で加勢職員はそれをサポートしている。テーブルでは検査を兼ねた職員1名(各ユニットで)が会話や見守りをしながら食事をするようになっている。食材の宅配サービスを利用しているため、その日のメニューを入居者と相談しながら決めることはできないが、希望があれば後日対応している。	食事は単に食欲や栄養を満たすだけでなく、入居者と職員の関係作り等でも大切であることから、今後は家族の一員として、職員と入居者が同じ食事を一緒に摂れるような検討を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時々で対応している。 噛みにくい方、飲み込みの悪い方、発熱、下痢等状態の悪い方には、刻み食、お粥を提供する。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアの実行。 訪問歯科検診を受けたり、研修を行い、口腔ケアの重要性を理解できている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助はサインを見逃さず、臨機応変に失敗しないように支援し、入居者が不快なく、気持ちよく排泄できるよう職員の意識づけができています。排泄パターンが把握できるよう記録をつけ、ナース・コールセンサーの活用。	同左	排泄チェック表により入居者個々のパターンを把握し、こまめな声掛けとさりげない誘導をしている。また、無線タイプのナースコールを活用し、羞恥心への配慮から、入居者からのコールがあるまでは少し離れて見守るなど臨機応変の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分補給、腹部マッサージ、生活リズムの安定に努める。排泄表の活用で確認を行い記録する。ヨーグルト、バナナ等おやつを工夫している。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆっくりコミュニケーションをとりながら実施。自立支援にて、出来ない所を手伝う。混乱なく規則正しく、平等に入浴できるよう、曜日と時間を決めている。	同左	基本は1日置きとしているが希望があれば毎日、どの時間帯でも対応している。拒む方については無理強いすることなく、言葉かけや対応、タイミングを工夫し、チームプレーによって入浴支援を試みている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動量を十分に取し、安眠を促す。巡視時・随時の安否確認を行い、環境面にも配慮している。不眠持続時は主治医と相談し適切な薬が処方される。	同左		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	セットする職員、服薬前名前確認、服薬確認など担当を分け常にミスのないよう気をつける。服薬担当者はケース記録に名前をサインする。個人別の薬保管棚を使用する。	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を生かし、実施。洗濯物たたみ、しまう。昔話をみんなで話す。天気の良い日、庭の散歩をしたり、近所に足湯につかりに行く。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって、天気の良い時、散歩に出たり、公園へ行ったり、足湯へ出かけたり、観音の滝を見に行ったりと外出している。恵まれた環境の中にある為。	同左	歩行困難なケースでも車イス等を利用して積極的に戸外へ出ることを支援している。職員は外出が入居者にとってリフレッシュになり、五感の刺激にもなることを十分理解している。近くには足湯スポットもあり、入居者には憩いの場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(鳴神) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(観音) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員の方の金銭を管理者が責任を持って、管理している。その都度、家族に連絡をとっている。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ対応する。手紙を出したい方にもお手伝いをしながら支援し、返事が届いた時も必ず本人に届ける。職員と一緒に読む事ある。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、昼間、カーテンをオープンにする。季節のものを壁に貼ったり、入居者の制作物を展示するようにしている。入居者が好まれる歌のCDなど準備し、提供している。	同左	居室を出ると、そこは広い居間という造りで中央の大きなテーブルや窓際のソファでは入居者が自由に寛いでいる。職員は、見渡すと居間や居室の状況も分かり、さりげない見守りが出来ている。また、壁には合作の貼り絵が飾っており、それから季節を感じる事ができる。台所のカウンター脇の柱は太い自然木が設えてあり、昔の家屋の大黒柱を思わせる。浴室やトイレもきれいに清掃され臭気は全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部にソファを置いたり、和みの空間作りをしている。季節に合ったディスプレイを入居者と共に作り、共用空間に配置している。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が今まで使っていた馴染みの物(タンス、洋服、椅子)持ってきて使用される方もあるが、新しく買われる方も多い。コップ、はし、写真、本など小道具を活用。	同左	使い慣れた物を傍に置いたり、逆に新品を喜んでいたり、また家族の写真を飾ったりと入居者それぞれの思いに添って各居室の配置がなされている。仏壇を持ち込んだ方には毎朝、仏飯とお茶を用意するなど居心地よく安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止を意識し、居室の家具配置やベッドの位置工夫する。居室には表札をつけている。必要な方には「トイレ」と張り紙する。	同左		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない